先週の説教要旨

『神殿の基礎とは』井上隆晶牧師
エズラ３：10～13、ヨハネ２：13～21

❶【宗教生活の基礎とは祭壇を築き、供え物を献げることにある】イスラエルの国はバビロンに滅ぼされましたが、そのバビロンをペルシャの国が滅ぼしました。神様はペルシャのキュロス王の心を動かし、エルサレムの神殿を再建するように命じ、希望する民に帰国することを許してくれました。実に約 70 年ぶりの帰還になります。彼らは帰って来てそれぞれ自分たちの町に住みましたが、やがてエルサレムに集まって祭壇を築き、献げ物をし始めました。礼拝を始めたということです。リフォーム（Reform）」という言葉を皆さんは聞いたことがあると思います。リフォームというと何か新しいことを始めるような印象を持ちますが、もともとの意味は「原型に帰る」ことを言います。宗教改革は英語で「the Reformation」といいます。**私は神学校の時、「伝統に帰りなさい」と教えられました。伝統というのは教会の本来の姿を指します。**その伝統から中世のカトリック教会が外れてしまったので、ルターは元に戻そうとしたのです。ウレスレーも古代教会の教父の伝統に帰ろうとし、祈祷書を読み、毎日聖餐をしました。本来の教会の姿に戻すのが宗教改革です。私がしていることはプロテスタント教会の人からは異様に見えますが、伝統に帰っただけです。**宗教生活の基礎とは祭壇を築き、供え物を献げることにあります。祈りを献げ、最終的には自分自身を献げることにあります。**

❷【自分の罪を知っているからこそ涙を流せる】彼らは翌年の二月に神殿再建を始めました。それが今日読んだ個所です。「**主の神殿の基礎が据えられたので、民も皆、主を賛美し大きな叫び声をあげた。昔の神殿を見たことのある多くの年取った祭司、レビ人、家長たちは、この神殿の基礎が据えられるのを見て、大声をあげて泣き、また多くの者が喜びの叫び声をあげた。人々は喜びの叫び声と民の泣く声を識別することができなかった。民の叫び声は非常に大きく、遠くまで響いたからである。**」（エズラ３：11～13）神殿の基礎（礎石）が据えられた時、昔の神殿を見たことのある人たちが泣いたと書かれています。彼らは美しく、栄光に輝いていた時の神殿を覚えていました。しかし今目の前にあるのは瓦礫と廃墟です。**人間というのは何かを失わなければ、自分の罪には気がつきません。犠牲がないと人は罪が分からないのです。**廃墟の神殿を見て、彼らは自分の罪がはっきりとわかったのだと思います。そんな罪深い自分にもかかわらず、神様は自分たちを憐れみ、再び生きるチャンスをくださいました。神様の憐れみと忍耐が分かったのです。だから泣くのです。**この涙は「悔い改めの涙」です。**11 世紀の新神学者シメオンは「涙もなく礼拝を祝い、涙もなく聖体を拝領する者は、礼拝を祝う資格も聖体を受ける資格もない」と言いましたが、それほど涙というのは大切なのです。

❸【悔いし砕けた魂がなければ】この神殿は、紀元前 517 年～518 年に完成し、「第二神殿」と言われます。それから五百年後の紀元前 19 年にヘロデ大王が神殿の大規模拡張工事を行い、紀元後 70 年に完成しました。しかし完成した翌年にローマ軍がエルサレムを包囲し、完全に破壊されてしまいました。なぜこの神殿は建てては崩され、建てては崩されるのでしょう。それは**いくら建物を立派に建てたとしても、そこに集まる民の心がそれにふさわしいものではなかったからでしょう。**↗

週　報

日本キリスト教団　**都島教会**

伝道所設立 1957 年 12 月 1 日　教会設立 2001 年 12 月 2 日
〒534-0012 大阪市都島区御幸町 2-6-17
TEL06-6922-1120　FAX06-6922-1120
Ｅメールアドレス：miyakoch@eagle.ocn.nejp
ホームページアドレス：https://miyakojima-church1.com
郵便振替 00920－4－1442 日本基督教団都島伝道所
主任牧師　井上隆晶

２０２４年１１月１７日　No.１７９４

《祭司エズラ》

都島教会の 2024 年度の宣教方針

標語　《会堂建築の準備をしよう》
聖句　「イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません。」（Ｉコリント３：11）

2024 年度の目標

1　毎週礼拝を守り、礼拝出席平均 27 名を目指します。
2　一年間に一人を礼拝にお誘いします。
3　会堂建築のための具体的な準備をします。
4　皆で教会を建てる意識を育てます。